

脾 臓

板井 悠二*

脾臓の全体像がCTによって非侵襲性に明瞭に描出されることは、まさに驚きそのものであった。しかし、このことと根治可能な脾癌がCTで発見し得るか否かとはまったく別問題である。現在までの知見の集積に基づく答は、切除可能癌の多くは、なんらかの所見を有すが、脾内に留まり脾輪郭に変化を与えぬ脾癌をルチーン検査で見出すことは困難という悲観的なものである。だが進行脾癌が90%くらい正診されるとの報告は、それ自体やはり価値ありとみなすべきである。少なくとも過剰な検査を避け、速やかに診断に至る点でCTの有用性は認められる。そのほか、脾結石、脾のう胞についてはきわめて有効かつ信憑性が高い。脾自体の大きさも正確に評価でき、経時的変化も客観的に評価し得る。

脾CTの読影を正常脾とスキャン法、脾癌、脾炎に分けて記す。

* Yuji ITAI 東京大学医学部・放射線科講師